

第3回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和4年5月27日(金)
開会 15時00分 閉会 15時55分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出 席 者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員(教育長職務代理者) | 服部 俊也 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 浮田 信太郎 |
| 教育次長 | 梅崎 聖 |
| 学校教育推進監 | 川上 慎治 |
| 教育政策課 | 課長 大西 治郎 |
| | 副課長 有田 純子 |
| | 総括主幹 石崎 貴史 |
| 高校教育課 | 課長 中村 正芳 |
| 人権教育・生徒指導課 | 課長 高山 公彦 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 報告事項
- (1) 令和3年度文部科学省「英語教育実施状況調査」の結果について
 - (2) 令和3年度教育相談の実施状況等について

6 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。
委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

特にないようなので、直ちに審議に入る。

報告事項（1）令和3年度文部科学省「英語教育実施状況調査」の結果について

・高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

県立中学校の結果はどうか。

(高校教育課長)

県立中学校の生徒の英語力の状況は4校の平均で98%程度である。県立中学校の英語担当教員の英語力の状況については80%程度になる。

(委員)

市町村単位で課題のある地域を把握しており、指導助言に活用しているのか。

(高校教育課長)

市町村ごとに数値等を把握しており、指導等に生かしているところである。

(教育長)

県立中学校においては確かに生徒・教員両方の英語力は高いが、全体の母数に対して県立中学校は少ないため全体を押し上げるほどではない。また、生徒の英語力の状況については、中学校3年であれば英検3級以上相当と思われる生徒の割合と定義しており、実際に英検3級を受けている、GTEC等の英検3級相当の試験を受けている、教員が英検3級相当の英語力があると判断した場合など基準が曖昧である。加えて、都市部と中山間地域とでは英検等の会場設定の有利不利がある。

(委員)

授業における英語担当教員の英語使用状況の割合もばらつきがみられる。

(高校教育課長)

調査の定義が曖昧であり、設置者ごとにどのように学校へ説明したかで回答も変わってくると考えられる。

(委員)

授業における英語担当教員の英語使用状況の本県の高校の割合において令和元年度の調査から約10%低下した要因は何か。

(高校教育課長)

これまでの調査では簡単な発話でも「英語を使用した」とし、数値の改善も見られていたが、新しい学習指導要領では、単なる発話でなく、実際に教員が生徒とやり取りを行うなど充実した言語活動が求められており、そのような授業改善が進むと求められる発話のレベルも上がるため、本調査の数値が少し下がっているものとする。

(委員)

教員の英語力が上がっただけではならず、生徒の英語力も上がらなければ意味がない。数値が高ければ良いという話ではなく、生徒の理解が進みながら英語に慣れることに繋がらなければならない。

(教育長)

本県でもまずは教員の英語力の向上が必要と判断しており、かなり力を入れて教員に英語の研修を受講してもらっている。また、生徒の英語力について全国的に数値が高いのが福井県とさいたま市であるが、英検3級を有している場合、入試で有利になる制度を取り入れていることに加え、生徒が英検等を受検する際に補助を出すなど県や市全体で支援をしている。

(委員)

助成があることで受検機会が増え、合格率も上がるのではないかと思います。

(教育長)

生徒の心が受検に向かうと教員も対策をしようとするため合格率も上がると思われる。

(学校教育推進監)

本県の中学校3年生の英検3級受検率は38.5%に対して福井県は94%から95%であり、自治体の働きかけや助成の仕方によって受検率は大きく異なってくる。また、教員も受検に向けた指導をするようになる。

(高校教育課長)

県内でも半数の市町村が英検3級の受検料を公費で負担をしており、負担をしている市町村の方が取得率は高い。

(委員)

英検3級に合格できる能力があるにも関わらず受検していない生徒が本県では

多いということか。

(教育長)

定義に「英検 3 級相当」と入っている理由は受検できない場合の配慮も伺える。ただし、教員に「この生徒は英検 3 級を合格できる能力がある」と判断できるかが難しい。

(委員)

英語の使用状況を計ることは難しいのではないか。何か尺度はあるのか。

(高校教育課長)

一律の基準がないため、教員単位の感覚によるものとなるのは仕方ないと考える。

(委員)

発話量が多ければ多いほど生徒の英語力が上がることは証明されているのか。また、教員の英語力が高ければ高いほど生徒の英語力も上がるのか。

(高校教育課長)

発話については国の調査でそのような分析ができています。また、教員の英語力については、生徒の英語力が高い福井県の教員の英検準 1 級以上等を取得している割合は 96.9%で全国 1 位であり、相関は十分にあると考える。

(委員)

本県の場合、英語力の状況及び英語使用状況が中学校では全国平均を下回り、高校では上回っているが理由は何か。

(高校教育課長)

高校の大半は県立高校であり、県教委から直接授業改善や資格取得を促しており、市町村が主体の中学校と差が生じるのではないかと考える。

(委員)

聞くだけでは英語力は身につかない。教員が授業で英語を使ったコミュニケーションに取り組むことが重要である。ALT を効果的に活用したり、ICT を活用し海外の学校との交流を活性化したりできないか。

(高校教育課長)

ALT の活用については通常の授業ではもちろん、放課後や、ご指摘の海外の学校との交流の前段階、コンテストや発表会などで活用しているところである。

(委員)

ALT とのコミュニケーションでも複数名の生徒が同時に行った場合、コミュニケーションが得意な生徒ばかりが喋ってしまいがちである。5 分でも良いので ALT と 1 対 1 で話をする機会を作ってほしい。

(高校教育課長)

ご指摘の内容についても現場での指導の中で取り入れてまいりたい。

(委員)

資料の今後の取組について、本県は全員の英語力を上げていくのか、英語が好きな生徒に特化させるのか方向性がわかりにくい。曖昧すぎるため、生徒のニーズを捉えた目標があっても良いのではないかと考える。

(高校教育課長)

高校では英検準2級という目標を示しているが、準2級は高校1年生の必履修科目を修得できているレベルである。英語力を全体で引き上げるため、すべての学校でこのレベルの習得を目指すことは大切だ。一方で英語力が高い生徒はその能力に応じてコンテストへ出場や外国の大学のオンライン授業を履修するなどしており、両面から働きかけることが重要であると考えます。

(委員全員)

了 承

報告事項(2) 令和3年度教育相談の実施状況等について

- ・人権教育・生徒指導課長から資料により一括説明

(委員)

相談件数の多い「その他」の内訳はどんな内容か。

(人権教育・生徒指導課長)

頻回相談の方がかけて来られる場合が多い。匿名の場合が多いため、相談内容が掴みにくい場合もあるが、自身のことや近所付き合い、無言など主訴が不明であったり、教育相談の目的から外れていたりする内容をここに計上している。そのような方の安定の一助に繋がればと相談はきちんと対応している。

(委員)

「STOPit」の相談内容で教職員との関係・要望の相談が62件あるが、どんな相談があるのか。ハラスメント関係の相談はあるのか。

(人権教育・生徒指導課長)

授業の進度が早い、宿題が多い、担任や顧問と合わないなど教員に直接言いにくい内容が主である。ハラスメントの相談については指導に不満がある相談はあったが暴力等の話ではない。

(委員)

コロナ禍の影響も心配していたが昨年度と比較して相談件数に差がないとのことだが、どう捉えているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

令和2年度のスクールカウンセラーへの相談ではコロナに関する相談内容は全体の5%に満たなかったものの、当然ストレスの蓄積が学力や友人関係にまったく影響がないとは考えていない。背景にコロナがあることを念頭に置きながら相

談の対応が必要と考える。

(委員)

「STOPit」での相談後、同じ相談者から一定期間相談がない場合、相談員から働きかけは行っているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

1週間相談がなければ相談員からその後の様子を確認するようにしている。その際も反応がない場合は一旦の終結としている。

(委員)

相談を受けて現場の教員へ連絡した際の解決率はどうか。

(人権教育・生徒指導課長)

相談内容のレベルによって分類をしており、中レベル以上の教育委員会へ早急に報告することが望ましい案件については業者から連絡が来る。学校にも連絡が届くようになっており、学校の教員はそれらの情報を基に見当を付け、対面相談まで繋がっている場合がある。

(委員全員)

了 承

閉会